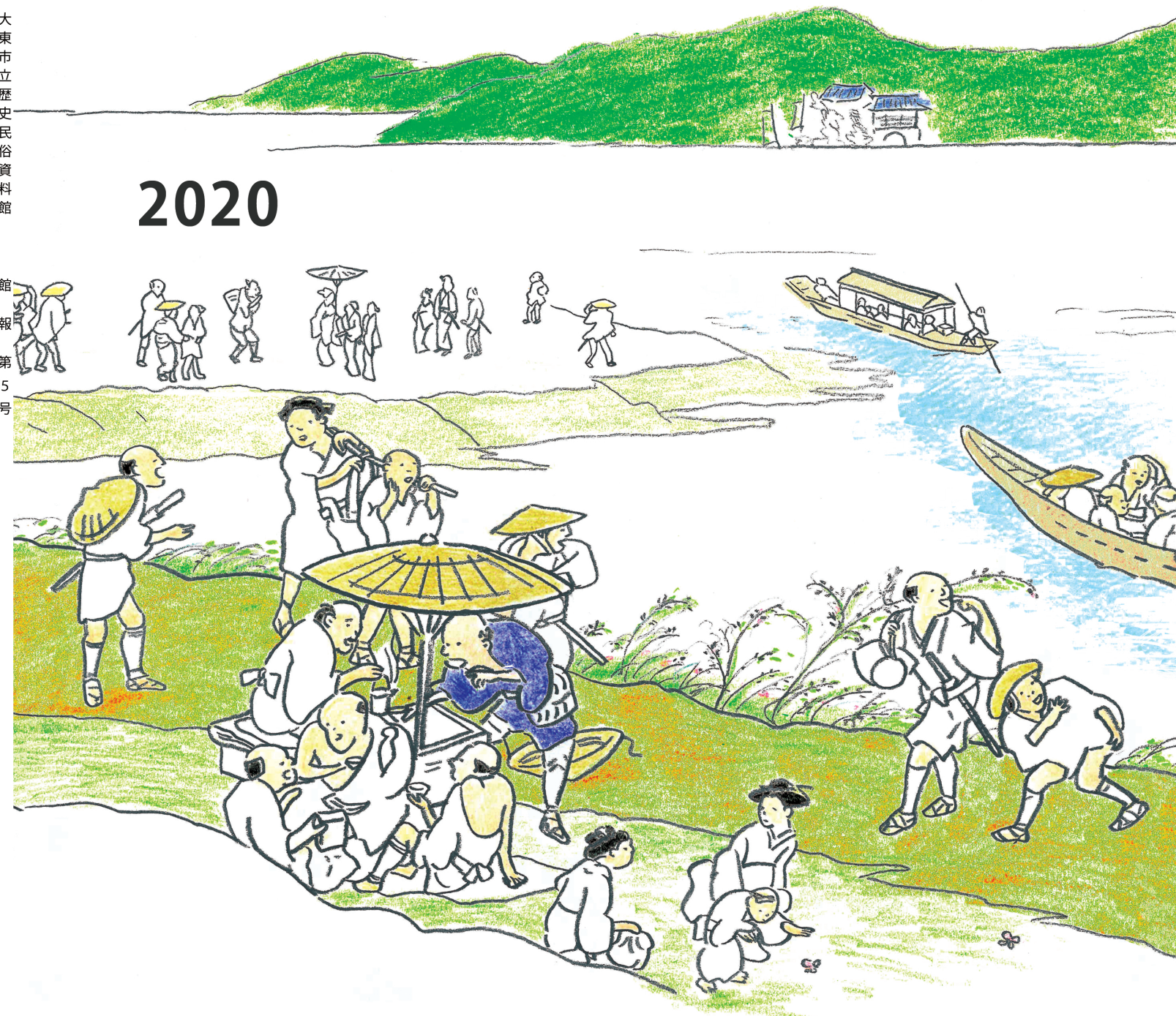


大東市立歷史民俗資料館

2020

館報
第5号



大東市立歴史民俗資料館

館報 第5号

2020

ごあいさつ

大東市立歴史民俗資料館は、2017年度より「みんながつながる楽しくひらかれた資料館」というミッションをたて、2020年度も引き続き活動を行ってきました。このミッションのもとに行った活動について、『大東市立歴史民俗資料館 館報5号』として報告します。

昨年度は、展示事業としては、展示とそれに伴う講演会や見学会などの関連事業を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため4月から5月下旬までの1ヶ月ほど臨時休館になり、大幅に事業計画を見直すことになりました。展示については、夏・秋・冬展の3回実施しました。その内、「河内の聖徳太子信仰～野崎専応寺聖徳太子像の魅力を探る～」展は大東市教育委員会との共催で開催しました。

当館の市民学芸員との事業についても、月に1回集まる「市民学芸員例会」と市民学芸員が自主的に活動を行う「市民学芸員提案事業」を中止し、学芸員と共に調査を行う「学芸員提案事業」についても、密を避けるために参加人数を大幅に減らし、緊急事態宣言解除後の7月より実施致しました。また、毎年開催している「学芸員体験講座」も毎年多くの申し込みがありますが、中止を余儀なくされました。

最後に、昨年度と同様に資料館と学校の連携促進を図りました。市内小学校向けに団体見学の解説、出前授業等については、新型コロナウイルスの影響により例年同様に実施出来ませんでした。感染拡大防止の対策を講じて行いました。

この『大東市立歴史民俗資料館 館報』を通じて、皆様に当館の活動をご覧頂くことにより、ご助言を仰ぎ、当館の博物館活動をこれまで以上に充実したものになるよう努めて参りたいと思います。最後になりましたが、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

令和3年9月30日
大東市立歴史民俗資料館
館長 大畑 博嗣

大東市立歴史民俗資料館 職員 (令和3年3月31日現在)

館長 大畑 博嗣

博士(文学)。大谷大学真宗総合研究所研究補助員、大谷大学研修員などを経て、平成24(2012)年4月より学芸員として当館に勤務。平成28(2016)年4月より主任学芸員、平成29(2017)年10月より副館長を経て、平成31(2019)年4月より現職。専門は日本仏教史。中世における仏教団史が主たる研究テーマだが、明治期の真宗寺院再建史や近代の真宗大谷派学事史に関する論文も執筆。資料館では、文献史料を担当。

学芸員 森井 綾乃

平成29(2017)年京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻染織修了。平成26(2014)年9月より勤務。平成31(2019)年4月より現職。主に展示や広報物の制作・デザイン、河内木綿に関する取り組みを担当する。

学芸員 森田 拓馬

奈良大学文化財学科保存科学コース卒業後、模型や複製品製作の民間企業に勤める。平成30(2018)年4月より勤務。平成31(2019)年4月より現職。資料館では体験機材の製作や、モノづくりの視点から資料を見る取り組みを担当する。

学芸員 甲斐 規予子 (～令和2年4月30日)

京都造形芸術大学(現京都芸術大学)歴史遺産学科文化財保存修復コース卒業後、国立民族学博物館に勤務を経て平成28(2016)年9月より現職。資料館では民俗資料を担当。市民学芸員と協同し、民俗資料収蔵庫の収蔵展示や、バックヤードツアーに取り組んでいる。

学芸員 北村 美香

博士(博物館学)。専門は博物館教育・マネジメント。滋賀県平和祈念館の初代学芸員として、開館準備室より勤務。その後、博物館の教育普及等を支援する「結 creation」を平成27(2015)年に立ち上げる。大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館の外来研究員。平成30(2018)年4月より現職。資料館では、教育普及および運営に関するサポートを行っている。

学芸員 鮫島 早葵

京都造形芸術大学(現京都芸術大学)大学院芸術研究科芸術専攻歴史遺産研究領域修了。2020年10月より枚方市役所と兼務。資料館では民俗資料を担当する。

大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員 (令和3年3月31日現在) 74名

浅野 純郎	氏原 稔夫	木戸 佑美	末若 よしこ	新井 敦子	深日 佳乃
綾部 洋	大山 嘉代子	木邨 加奈	杉本 謙介	西川 瑞代	前田 喜久子
安達 昌代	岡田 寧寧	栗山 登志子	鈴木 敏之	服部 悦子	増井 智之
安藤 文平	小河 薫	黒川 喜和子	大藪 美貴子	林田 恵子	松尾 恒則
石井 正枝	小野寺 美智子	栞原 妙子	竹元 智子	檜垣 一美	松谷 孝一
石田 郁子	柿木 薫	桑村 和男	田里 孝子	東村 誠	松本 幸広
石田 薫	金澤 涼子	小泊 繁美	田中 優希	樋口 佳文	水永 八十生
磯野 良隆	金澤 涼夏	斉喜 広一	辻 ゆう子	平井 淑子	森川 安生
磯畑 健一	鎌田 誠四郎	坂手 央人	寺原 千佳子	平尾 寿美子	吉武 文美恵
伊藤 幸美	加茂 伸子	坂手 富美子	富増 由起子	平尾 和久	
稲葉 敏和	川人 美智子	澤井 嘉子	中下 志津子	平嶋 貞子	
猪股 文京	北田 享子	澤田 明音	中西 昭治	平松 宏正	
上野 繁	北野 武司	柴田 俊雄	中村 義之	広田 美和	



目次

ごあいさつ

I 館報

1 資料館事業報告

1 展示・関連事業	6 - 8
2 講師派遣事業	9 - 11
3 その他の事業	12 - 13
4 スクールプログラム	14
5 中止事業一覧	15
6 資料貸出及び閲覧等	16 - 17
7 月別入館者数	18
8 学芸員の館外における社会貢献活動	19

2 市民学芸員事業報告

1 例会・連絡会会議・市民学芸員提案事業(中止)	22
2 学芸員提案事業	23

II 研究報告

・ 地域博物館における新型コロナウイルス対策の現状 —大東市立歴史民俗資料館を事例として— 大畑 博嗣	26 - 29
・ 大東市立歴史民俗資料館におけるワタの栽培 —平成30年度から令和2年度の実施と考察— 森井 綾乃	30 - 37
・ 令和2年度企画展「切る道具」展の実施 森田 拓馬	38 - 41



令和2年度夏季企画展「切る道具」関連事業写真

I 館報

1 資料館事業報告

2020

展示・展示関連事業



夏季企画展
切る道具
 令和2年8月1日(土)～9月27日(日)

参加者数 / 1542名(期間中入館者数)
 担 当 / 森田 拓馬
 内 容 / 「切る」という機能を持った道具たちを、昔の道具と最近の道具を対比させて展示。また、大東市を含む北河内地域で切る道具を使用して作られた踏車や川舟などの関連資料を展示。

展示・展示関連事業



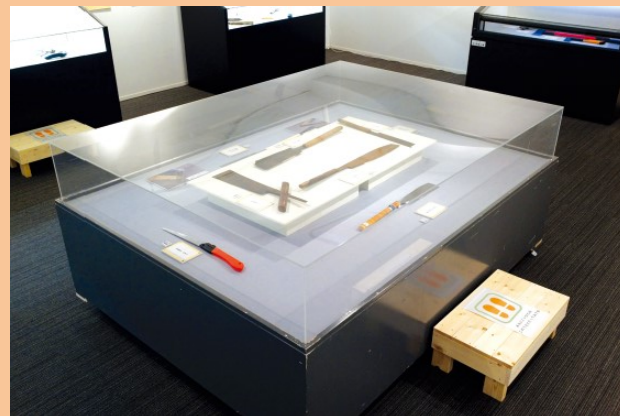
野崎専応寺聖徳太子像 市指定文化財記念
河内の聖徳太子信仰
 ～野崎専応寺聖徳太子像の魅力を探る～
 令和2年10月10日(土)～11月29日(日)

参加者数 / 888名(期間中入館者数)
 主 催 / 大東市教育委員会、大東市立歴史民俗資料館
 内 容 / 令和元年度に市の文化財に指定された専応寺所蔵聖徳太子像を広く知ってもらおうと共に、河内地域の聖徳太子信仰の深さを紹介する。

企画展関連事業
「竹で弓矢を作ってみよう」
 9月13日(日) 14時～16時

参加者数 / 21名 講師 / 奥野 悟さん(大東市青少年協会 協会員)、森田 拓馬

夏季企画展「切る道具」展に関連し、小刀やノコギリ、鉋などの切る道具を使用して竹の弓矢を製作する。



関連事業
講演会・見学会「野崎専応寺聖徳太子像の魅力に触れる」
 11月15日(日) 14時～15時

参加者数 / 25名 講師 / 吉原 忠雄さん(大東市文化財保護審議会委員)、岡村 喜史さん(大東市文化財保護審議会委員)

聖徳太子像の調査に関わった2人の先生から、河内地域の聖徳太子信仰についての講演会や専応寺蔵聖徳太子像の解説を頂き、参加者が太子像や境内を見学した。



展示・展示関連事業



冬季企画展
ちょっとむかしのくらし
 令和3年1月16日(土)～3月7日(日)

参加者数 / 941名(期間中入館者数)
 担当 / 森井 綾乃
 内容 / 小学校社会科3年生の学習内容に合わせた博学連携展。家のなかで使う道具やくらしの移り変わりをテーマとし、「第1章 戦前の道具とくらし」「第2章 戦中の道具、「代用品」「第3章 戦後の道具とくらし」から構成した。

企画展関連事業

れきみんカーニバル①「凧あげ」
 1月24日(日) 14時～16時

参加者数 / 6名(延べ人数) 講師 / 森田 拓馬、鮫島 早葵

和風の組み立てを行った。組み立て作業の前に和風の構造など参加者へ説明したあと、組み立てを行った。

企画展関連事業

れきみんカーニバル③「だんじりプラバンをつくろう」
 2月21日(日) 14時～15時

参加者数 / 12名(延べ人数) 講師 / 大畑 博嗣、北村 美香

実物のだんじりの彫り物を展示し、大東市内のだんじりと展示した彫り物について説明した。その後、プラ板上に印刷された彫り物のトレース図に参加者が好きな色を塗り、板に熱を加え収縮・硬化後、根付け紐を装着するワークショップを開催した。

企画展関連事業

歴史カーニバル②「ちりめんモンスターをさがそう」
 1月31日(日)

参加者数 / 18名(延べ人数) 講師 / 森田 拓馬、北村 美香

ちりめんじゃこに混在するカタクチイワシ以外の魚類の稚魚やタコ、イカ、カニなどの幼体を探し出し、種類を調べる。また、見つけた生き物をレジンでかためてキーホルダー作りを行った。

企画展関連事業

れきみんカーニバル④「布ぞうりをつくろう」
 3月7日(日) 13時～16時

参加者数 / 11名 講師 / 森井 綾乃、鮫島 早葵

裂いた布を用いて、手のひらサイズのぞうりを作るワークショップを行った。

講師派遣事業



大東市立野外活動センター
「民具×米作り体験」

令和2年5月31日(日)、7月5日(日)、8月8日(土)、9月5日(土)、10月3日(土)、11月3日(火)、11月22日(日)
 10時～16時

参加者数 / 93名(延べ人数)
 主催 / 認定NPO法人大東市青少年協会 (協力/大東市立歴史民俗資料館)
 担当 / 森田 拓馬
 内容 / 田舟、馬鍬といった所蔵民俗資料を活用した米作り体験。

- 第1回 苗床づくり
- 第2回 草引き
- 第3回 草引き
- 第4回 草引き
- 第5回 稲刈り
- 第6回 脱穀
- 第7回 試食



公民館 古文書サークル

令和2年6月18日、7月16日、8月20日、9月17日、10月15日、11月19日、令和3年1月21日、2月18日、3月18日(木) 14時～16時30分

参加者数 / 56名(延べ人数)
 担当 / 大畑 博嗣
 内容 / 平成29年8月から「初めて古文書を読む会」としてサークル活動を開始したため、『大東市史編纂資料集』に掲載されている古文書を使い、参加者へ古文書解読の講座を行った。





京都橘大学 「公共施設論」

令和2年9月3日(木) 10時40分～12時10分

参加者数 / 15名

担当 / 大畑博嗣

内容 / 資料館の概要について講義した後、展示室と収蔵庫の見学を行った。



奈良大学通信教育部 博物館実習

令和2年10月21日(水)～23日(金)、29日(木)、30日(金)
10時30分～17時30分

参加者数 / 60名(延べ人数)

担当 / 宮元正博(池田市立歴史民俗資料館)、大畑博嗣、森井綾乃、森田拓馬、北村美香

内容 / 学芸員の専門分野について講義を行い、館蔵品を利用して実際に資料に触れて実習を行った。



大東市立公民館共催事業 「藍染め体験～ジャパンプルーを知る～」

令和3年3月22日、29日(月) 14時～16時30分

参加者数 / 46名(延べ人数)

担当 / 森井綾乃

内容 / 大人向けの藍染め体験イベントを実施した。1日目は手ぬぐい、2日目はトートバッグをくったり挟むなどといった簡単な方法で藍染めした。



大東商工会議所主催「だいとうキッズファクトリー」 「簡単な手織物体験」

令和3年3月27日(土) 13時～14時

参加者数 / 46名(イベント参加者数合計)

担当 / 森井綾乃、北村美香

内容 / 大東商工会議所が主催する、オンラインの物作りイベントに参加した。歴史民俗資料館からは、河内木綿にまつわる体験として手織物体験を行った。また、織った布はくるみボタンとして仕上げた。



「藍染めをやってみよう！」

令和3年3月28日(日) 13時30分～16時30分

参加者数 / 20名

担当 / 森井綾乃

内容 / 松原市と一般財団法人松原市文化情報振興財団が主催する、藍染めの体験学習講座を行った。むかいの生活の一部を体験し、学ぶための小学生を対象としたイベント。



東市外の方も野崎観音といえ
野崎参りでご存知だと思います

大東市立公民館共催事業

「野崎城跡の春を探そう！自然かんさつピクニック」

令和2年5月15日(金)、23日(土) 18時～20時

参加者数 / 一(オンライン配信) 講師 / 田代 貢さん(大阪市立自然史博物館友の会)、大畑博嗣

内 容 / 公民館との共催事業。自然豊かな大東市東部地区にて、専応寺・慈眼寺(野崎観音)・野崎城跡の文化財を巡りながら、周辺に自生・植樹された植物の解説動画を撮影・配信した。



チリモンキーホルダーを作ろう!!

令和2年7月12日(日) 13時～16時

参加者数 / 31名(延べ人数) 講師 / 北村 美香

内 容 / 小中学生対象の観察とモノづくりワークショップのイベント。ちりめんじゃこを観察し、中から生き物を見つけて種類を調べる。また、見つけた生き物をレジンで固めてキーホルダーを作った。



博物館実習

令和元年8月5日(水)～9日(日) 9時～16時30分

参加者数 / 48名(延べ人数)

担 当 / 大畑 博嗣、森井 綾乃、森田 拓馬、北村 美香

内 容 / 近畿大学、大阪国際大学からの依頼で、博物館実習を実施した。1日目は文献資料調査、2日目は民俗資料調査、3日目は写真資料調査、4日目は近隣の文化財見学と展示の作成について講義、5日目は展示キャプションの作成と実習展の会場設営を行った。



堂山古墳群史跡広場普及促進事業 見学会

「堂山古墳群を歩く」

令和2年11月29日(日) 14時～16時30分

参加者数 / 24名

講 師 / 笠井 敏光さん(大阪国際大学教授)

内 容 / 大東市を代表する古墳群である堂山古墳群を多くの方に知ってもらうため、資料館において古墳群の概要を説明した後、現地を見学・案内を行った。



おうちミュージアム

令和2年4月19日(日)～5月31日(日)

参加者数 / 90名

内 容 / 選挙や利用予約等で歴史とスポーツふれあいセンターを訪れる利用者向けに持って帰って遊べるキットや読み物を用意して、自由に持ち帰ることができるように設置した。



おうちミュージアム

令和2年4月19日(日)～令和3年3月31日(水)

参加者数 / 一(ホームページ上で掲載)

内 容 / 北海道博物館が主導する「おうちミュージアム」に参加する形で、施設に来ることの出来ない遠方の利用者向けに歴史とスポーツふれあいセンター公式ホームページ上に特設ページを立ち上げ、塗り絵や読み物などといったおうちで楽しむことができるコンテンツを用意した。

スクールプログラム

市内小学校団体見学利用実績



日時	学校名	学年	人数
1月29日(金)	四条北小学校	3年生	45名
1月29日(金)	四条北小学校	3年生	46名
2月1日(月)	四条小学校	3年生	35名
2月4日(木)	四条小学校	3年生	35名
2月8日(月)	四条小学校	3年生	35名
2月15日(月)	深野小学校	3年生	31名
2月18日(木)	深野小学校	3年生	31名

合計3校 258名

小学校講師派遣事業

日時	学校名	学年	担当	内容	人数
2月9日(火)	泉小学校	3年生	森井綾乃、森田拓馬	くらしのうつりかわり	86名
2月12日(金)	住道南小学校	3年生	森井綾乃、森田拓馬	くらしのうつりかわり	81名

くらしのうつりかわり2校 合計2校 167名

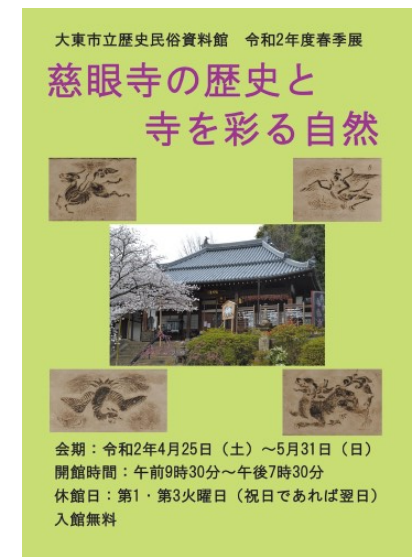


中止事業一覧

新型コロナウイルス感染症対策の影響により中止した事業一覧

日時	事業名
通年	学芸員体験講座 2020
通年	市民学芸員活動(例会、連絡会、市民学芸員提案事業)
4月25日(土)～5月31日(日)	春季展「慈眼寺の歴史と寺を彩る自然」(延期)
6月	飯盛城発掘調査報告スポット展(延期)
7月25日(土)	大阪国際大学「博物館実習事前実習」
8月21日(金)	大阪国際大学「文化プロデュース論」
9月19日(土)～11月15日(日)	秋季展「御供田展(仮)」(延期)

合計7件



資料貸出及び閲覧等

① 資料の貸し出し及び掲載等

資料名	貸出先	目的	公開期間
2016年度作成航空レーザー測量による地形測量図	個人	『生駒山地西斜面石切丁場跡群の研究—大坂城再築普請における生駒山石切場跡の考古学的調査—』2020年6月刊行予定。編集・発行 残念石研究会 利用内容 上記刊行物に図面を掲載。	令和2年4月30日から3週間
メノコ遺跡遺構・出土遺物写真(3点) 寺川浜遺跡出土遺物写真 北条西遺跡遺構写真 北新町遺跡遺構・出土遺物写真(4点)	大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立近つ飛鳥博物館令和2年度夏季企画展に伴う図録・展示パネルならびにポスター・チラシ・ホームページ等の広報資料への掲載。	令和2年6月4日～7月17日
メノコ遺跡出土遺物(14点) 寺川浜遺跡出土遺物(7点) 北条西遺跡出土遺物(15点) 北新町遺跡出土遺物(12点)	大阪府立近つ飛鳥博物館	大阪府立近つ飛鳥博物館令和2年度夏季企画展に伴う展示。文化財に対する普及啓発活動促進のため、来館者のメモ写真撮影に使用。	令和2年6月4日～9月30日
飯盛城跡赤色立体地図パネル 令和元年度発掘調査速報展「石垣が語る飯盛城」展示パネル『巨大山城』 YouTube 動画「北河内の巨大山城 飯盛城—大東市にあるお城はどんな城?—」(データにて貸出)	個人	より多くの大東市民に「飯盛城」とそこに居を構え天下に号令をかけたという「三好長慶公」のPR、知名度アップをねらう。また、三好長慶&飯盛城市民サポーター養成講座で使用するため。	令和2年7月6日～12月25日
飯盛城跡総合調査報告書 石垣 65, 66 飯盛城跡総合調査報告書 石垣 6, 7 飯盛城跡総合調査報告書 赤色立体地図	大東市立生涯学習センターアクロス	アクロス歴史カレッジの広報(チラシ)に使用するため。	令和2年7月28日～令和3年1月31日
茶タンス	富田林市人権・市民協働課	富田林市「第36回平和を考える戦争展」に展示するため。	令和2年8月5日～8月21日
飯盛城跡総合調査報告書掲載 巻頭図 版三赤色立体図 野崎城掲載部分拡大 同P22 図9 調査位置図 同図版六 龍間城・野崎城掲載写真の内、②・⑤龍間城、⑦・⑧野崎城(各1点) 同P184 下段 図93 遺構現況図	個人	三好長慶&飯盛城について、より多くの大東市民に「飯盛城」とそこに居を構え天下に号令をかけたという「三好長慶公」のPR、知名度アップを図る。また、三好長慶&飯盛城市民サポーター養成講座の受講生や興味関心のある一般市民に教材資料として提供出来るようにするため。	令和2年9月16日～12月25日

資料貸出及び閲覧等

資料名	貸出先	目的	公開期間
「野崎まいりの様子」データ(『河内名所図会』彩色データ、大東市立歴史民俗資料館『常設展示案内』使用分)	個人	府内四会所交流事業「大坂四会所集印巡り」の案内チラシ・ポスターのタイトル背景画として、加工し使用するため。	令和2年11月2日～令和3年3月31日
平野屋新田会所表長屋門写真 平野屋新田会所千石蔵写真 平野屋新田会所千石蔵跡写真 平野屋新田会所船着場跡写真	個人	平野屋新田会市民サポーター会議が発行する「新田の歴史と遺産」案内マップ改訂版に掲載するため。	令和2年11月10日～11月30日
「河内名所図会」野崎まいり挿絵(彩色)	株式会社 ABC アーク『歴史人』編集部	『歴史人』2021年3月号(2月6日発売)特集「江戸・大坂・京都三都」河内の名所にて掲載。	令和3年1月22日～2月6日
飯盛城配置模型(写真)	株式会社 ワン・パブリッシング	『歴史群像』第166号記事「三好長慶伝」(執筆者:天野忠幸氏)に掲載のため。	令和3年2月5日～
飯盛城跡遠景写真(飯盛城跡総合調査報告書掲載) 石垣6、7写真(飯盛城跡総合調査報告書掲載) 飯盛城址石碑写真	公益社団法人 大東市シルバー人材センター	大東市シルバー人材センター第2次中期事業計画冊子の表紙	令和3年2月25日～3月31日

合計12件84点

② 資料の撮影・閲覧

資料名	申請者	目的	申請日	撮影日
大東市史編纂資料集8 諸福村東家文書 リー4	個人	閲覧・写真撮影	令和2年10月1日	—

合計1件1点

月別入館者数

月	開館日数	一般来館者数			団体来館者数			事業参加者数	来館者数合計
		大人	子ども	計	大人	子ども	計		
4月	5	38	2	40	0	0	0	0	40
5月	7	33	8	41	0	0	0	107	148
6月	28	147	32	179	0	0	0	5	184
7月	29	144	15	159	0	0	0	78	237
8月	29	455	92	547	23	0	23	98	668
9月	28	428	68	496	0	0	0	70	566
10月	29	429	27	456	48	0	48	112	616
11月	28	468	36	504	19	0	19	123	646
12月	26	167	20	187	0	0	0	39	226
1月	26	241	47	288	7	84	91	59	438
2月	26	336	44	380	11	157	168	210	758
3月	29	291	49	340	45	0	45	126	511
合計	290	3177	440	3617	153	241	394	1027	5038

学芸員の館外における社会貢献活動

学芸員の館外における社会貢献活動

大畑 博嗣

論文等	「近世地域真宗寺院の一齣 野崎専応寺を例に」(草野顕之編『本願寺教団と中近世社会』所収、法蔵館、令和2年6月)
大学出講	大阪国際大学「日本史概説」(4月～8月) 大阪国際大学「国際社会と日本文化(思想・宗教)」(9月～令和3年3月)

森井 綾乃

論文等	「市民学芸員活動を起点とした子ども向け展示への展開―「河内木綿」をテーマとした2つの展示から―」(『展示学60・61号』、日本展示学会、令和3年3月) 「大東市立歴史民俗資料館：企画展「ちょっとむかしの暮らし」「市民学芸員」と育てる、昭和を伝える博学連携展示」(『展示学60・61号』、日本展示学会、令和3年3月)
大学出講	京都芸術大学「美術工芸史Ⅲ」(9月～令和3年3月)
学会発表	ポスター発表「市民学芸員活動を起点とした子ども向け展示への展開―「河内木綿」をテーマとした2つの展示から―」 日本展示学会第39回研究大会(令和2年9月20日)

甲斐 規予子

論文等	「御供田八幡神社蔵大絵馬の画像情報の記録のための撮影方法について」(『近畿民具学会年報第42輯』、近畿民具学会、令和2年4月)
-----	---

北村 美香

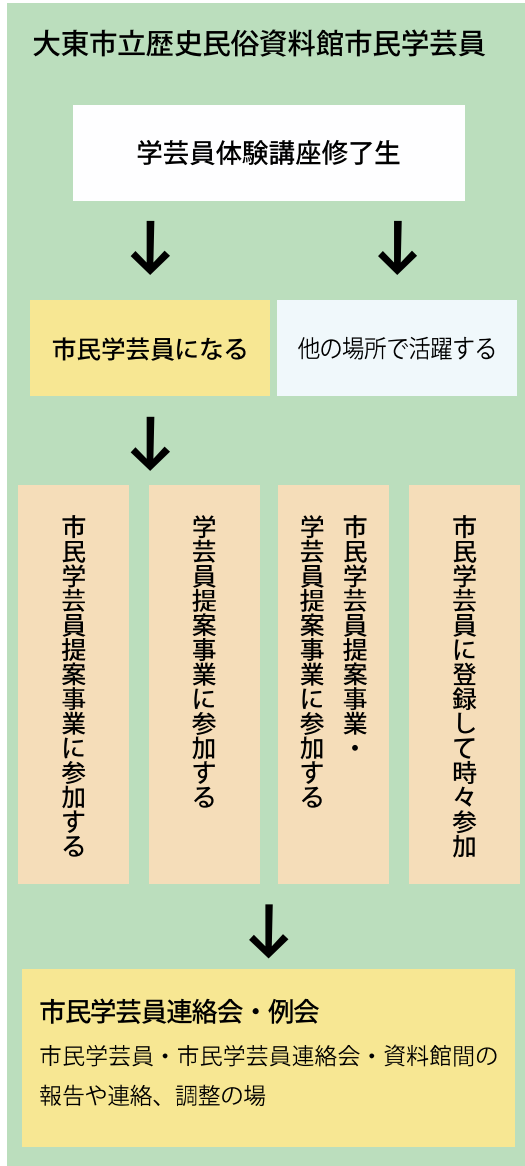
論文等	大阪市立自然史博物館／結 creation「地方博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止対策の現状」(『守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～2020年度事業報告書』、「守れ！文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会、令和3年3月)
-----	--



1 館報

2 市民学芸員事業報告

2020



市民学芸員連絡会会議

中止

市民学芸員例会

中止

市民学芸員提案事業

中止



大東木綿隊

令和2年4月26日、7月5日、8月2日、9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、令和3年1月10日、2月7日、3月14日(日) 14時～16時

参加者数 / 25名(延べ人数)

担当 / 森井 綾乃

内容 / 歴史民俗資料館で育てている木綿畑の手入れを行った。



古文書探し隊

令和2年7月10日、8月14日、10月16日、11月13日、12月11日、令和3年1月8日、2月12日、3月12日(金) 14～16時

参加者数 / 60名(延べ人数)

担当 / 大畑 博嗣

内容 / 昨年度より継続して龍間、経寺地区旧蔵の古文書翻刻作業を行った。



作り隊

令和2年年7月14日、25日(土)、28日、8月1日(土)、11日、25日、9月8日、19日(土)、22日、10月13日、27日、11月10日、24日、12月5日(土)、8日、22日、令和3年1月12日、26日、2月9日、23日、3月9日、23日(火) 14～16時

参加者数 / 169名(延べ人数)

担当 / 森田 拓馬

内容 / 飯盛山の地形模型作成。等高線を色分けし、5つの班で分担して切り出す。切り出した図をスチレンボードに張り付け、ボードを切り出す。



資料館入口の新型コロナウイルス感染症対策写真

II 研究報告

大畑 博嗣

森井 綾乃

森田 拓馬

2020

地域博物館における新型コロナウイルス対策の現状

—大東市立歴史民俗資料館を事例として—

大畑 博嗣

はじめに

令和2年(2020)初頭から、世界的に感染が拡大した新型コロナウイルスの影響で、大東市立歴史民俗資料館(以下、資料館と略す)でも、少なからず影響を受け、当館が行う展示やそれに伴う関連事業、市民学芸員活動が中止や延期に追い込まれる結果となった。

そこで、本稿では資料館における新型コロナウイルスの対策について、4月から1ヶ月発出された緊急事態宣言中と宣言解除後の取り組みと、団体見学対応、特に冬季展に伴う小学校の団体見学対応について、触れていく。

1、当館における新型コロナウイルス感染症への対応

まず、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、資料館が行った対応について時系列順に追っていく。

- 令和2年2月22日 大阪府と大東市の要請を受け、3月20日までの自主事業が中止となり、この日開催予定であった「学芸員体験講座」第11回近隣の博物館見学が中止。資料館自体は開館と市民学芸員活動は継続。
- 3月6日 大東市内でも陽性者が確認され、市民学芸員活動の中止を決定。この月に開催予定であった「古文書探し隊」、「収蔵庫整理隊」、「作り隊」、「市民学芸員例会」が中止。資料館自体は開館継続。
- 4月6日 国から緊急事態宣言が発出されたことを受け、5月6日まで全館臨時休館。
- 4月28日 大東市の要請を受け、5月10日まで休館延長が決定。

- 4月30日 休館延長に伴い、春季展「慈眼寺の歴史と寺を彩る自然」は秋もしくは来年度へ延期、「学芸員体験講座」は中止、市民学芸員活動は再開後に開始と館内で決定。
- 5月7日 大東市の要請を受け、5月31日まで休館延長が決定。
- 5月21日 大阪府・京都府・兵庫県への緊急事態宣言が解除。
- 5月22日 大東市からの要請を受け、25日より開館が決定。
- 5月25日 全国で緊急事態宣言が解除。再開館。

2、緊急事態宣言から宣言解除後の取り組み

前述のように、当館でも全国の博物館・資料館の例に漏れず、4月6日から5月25日までの約1ヶ月間、大東市の要請を受けて臨時休館を余儀なくされたのであるが、この休館中から5月25日の再開館以降にかけて実施した取り組みについて、触れていく。

(1) 子供向けコンテンツの配布ⁱ

資料館が臨時休館中の中、同施設内のグラウンド・体育館・貸部屋の運営を行うふれあいセンターの総合窓口はキャンセル対応で開設していたことと、併設されている東部図書館が蔵書の返却業務を行っていたことから、少しではあるが来館者がいた。また、4月19日には大東市長・大東市議会議員選挙が実施され、体育館が投票所に指定されていたため、有権者が投票に訪れた。そういったことから、緊急事態宣言中に小中学校・高等学校が休校となり、自宅にいる子供たちに何か出来ないか館内スタッフで検討した結果、既存のコンテンツを使用し、

自宅に持ち帰りすぐに遊べるものを数点まとめて、来館される近隣の方々に向けて配布を試みた。

まずは、前述の4月19日に投票へ訪れる有権者に向けて、「れきみんお楽しみセット」と題して、「だんじりペーパークラフト」、「だんじりおめん」、「洗たく板で洗たく体験」など、既にワークショップ用に作成していたコンテンツを1つにまとめ、配布を行った(写真1)。その後も中身を変えて、ふれあいセンターの総合窓口前に特設の台を設置して、来館者へ配布を行った。

また、来館が難しい方のために、Webを使ったコンテンツ作りを行った。北海道博物館が3月より公開した「おうちミュージアム」ⁱⁱに当館も参加し、当館のホームページ内に「おうちミュージアム」特設ページを開設し、①「かわちもめんちゃん」ぬり絵、②「だんじり」ぬり絵、③「河内名所図会」ぬり絵、④「ちょっとむかしのくらしと、どうぐたち」パンフレットを公開し、それぞれPDFファイルでサイトからダウンロードが出来るようにした。さらに「ちょっとむかしのくらしと、どうぐたち」パンフレットは、冬季展「ちょっとむかしのくらし」にリンクした内容になっているため、再開館後に来館して実物資料を見てもらえるような仕掛けになっている。

(2) 再開館への準備

前述の通り、5月21日で大阪府・京都府・兵庫県へ

の緊急事態宣言が解除され、翌22日に大東市からの要請により25日に再開館が決定した。この宣言解除から再開館まで僅か4日という日数しかなく十分な準備が出来なかったが、再開館後も館内で新型コロナウイルス対策を講じた。

・当館独自のガイドラインの策定

再開館にあたり、当館独自のガイドラインを策定する必要があった。すでに、日本博物館協会が開館に向けたガイドラインを策定していたためⁱⁱⁱ、それを土台とし、電話による近隣の博物館・資料館への聞き取り調査により、ガイドラインを作成した。

主な内容として、マスク着用・アルコール消毒の義務、37.5度以上の発熱がある方の入館拒否、一定数以上の入館者がいる場合は入場制限を設け、入口で一定間隔を開けて待機してもらう。団体見学については当面の間受け付けず、突発的な団体見学希望については、入場制限を設ける。入館に際して、入館者の氏名・連絡先・体温・発熱症状の有無を記入してもらう「入館者チェックシート」を作成した。これらの一部については、館の入り口にポスターとして貼り出して、来館者へ周知した。

・館内の予防対策

次に館内において、来館者を向かい入れるための準備を行った。再開館まで日数が少なかったこともあり、大がかりな準備が出来ず、出来ることから始めた。



1:「れきみんお楽しみセット」配布の様子 / 2: 再開館後の受付の様子 / 3: 出張授業の様子

まずは、館内入口に台を設置し、その上にアルコール消毒の容器を設置して来館者に利用してもらうように説明を付した。

そして、受付窓口には透明なビニール幕を設置し、飛沫防止対策とした。しかしながら、このビニール幕の設置は簡易なものであったため、耐久性に乏しかった。再開館後の6月に入り、受付前に机を1台置き、その周りを木材で製作した枠に貼りつけたビニール幕で囲いつつ、アクリル板を設置して飛沫防止対策を講じながら、「入館者チェックシート」の記入や刊行物の販売を行った(写真2)。

さらに、廊下と展示室内にはサーキュレータを設置し、換気扇も作動させながら空気が循環するように工夫を行った。

また、展示室内は来館者同士が密にならないように、常設展示室1に設置していた映像観覧用の椅子を撤去し、常設展示室1・2に2mの間隔を開けて見学して頂くために、ラミネート加工した足形のマーカーを床面へ貼り、距離を保つように促した。これに加えて、2階廊下に設置していたハンズオンコーナについても、不特定多数の来館者が触れることを懸念し、移動出来るものについては撤去し、動かせないものについては布を被せて手が触れられないように施した。そして、廊下にも来館者へ2m間隔がどのくらいなのか実感して頂くために、以前に「ちょっとむかしのくらし」展で制作した人型パネルを2m間隔で設置し、工夫を凝らした。

3、新型コロナウイルス対策と団体見学対応 一小学校の対応を中心に―

9月11日付で内閣官房から発出された「11月までの催事の開催制限等について^{iv)}」、並びに日本博物館協会から9月18日付で改定された「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン^{v)}」を受けて、資料

館でも大東市との協議を経て、1度の入館者数を20人まで、団体見学の受け入れといった入館制限を緩和し、来館者を迎えることとなった。

資料館では毎年冬季展「ちょっとむかしのくらし」開催期間中に、市内の小学3年生の団体見学と、小学1年生における国語の単元である「たぬきの糸車」にて、話中にたぬきが使用する「糸車」を実際に見学と「綿繰り機」体験を行う出張授業を受け入れていた。だが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、館内のスタッフ間で上記の団体見学と出張授業を受け入れるか否かが議論となった。

結果的には受け入れる方向で申込みがあった小学校と調整を行ったが、本章では実際に団体見学と出張授業を受け入れるための準備と対応について触れていく。

(1) 受け入れ前準備

まず、学校の教育現場では、どのような新型コロナウイルス対策が行われているのかを知るため、また団体見学と出張授業を受け入れのためのガイドラインを策定する必要があったため、文部科学省が発出している「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～^{vi)}」を参照にした。児童登校時の検温・教室内の常時換気・マスクの着用その他、「各教科における「感染症対策を講じてもなお感染リスクが高い学習行動」」として、「児童生徒が長時間、近距離で対面形式なるグループワーク」及び「近距離で一斉に大きな声で話す行動」が挙げられていたため、団体見学では展示室・民俗収蔵庫内の見学対応だけでなく、洗濯板体験、出張授業では「綿繰り機」体験で密になる可能性があるため、対応が迫られた。

そこで資料館では、従来団体見学において1日に1校1学年を受け入れ、各クラスで展示室・収蔵庫・洗濯板体験をローテーションで行っていたが、密を避けるために1クラスずつ受け入れ、その上で2つの班に分け、展

示室や収蔵庫の見学を行い、「児童生徒が長時間、近距離で対面形式になるグループワーク」となる洗濯板体験は実施しなかった。出張授業については、従来クラス全員に「綿繰り機」体験を行っていたが、代表者による体験を行うといったガイドラインを策定し、問い合わせがあった学校の担当教員には電話や事前打ち合わせで説明し、納得して頂いた上で受け入れを行った。

(2) 受け入れ対応

実際に小学校からは、新型コロナウイルス感染拡大を懸念してか、前年と比較して大幅に減少し、「たぬきの糸車」の出張授業は0件で、団体見学の申し込みは5校あり、うち2校については日程等の調整が合わず、資料館から資料を持参し民具の実演など出張授業を行った(詳細は本書14頁参照)。それぞれの見学・出張授業は、資料館が策定したガイドラインに沿って実施された(写真3)。また、例年市民学芸員へ声がけを行い、団体見学時に説明補助にお手伝いをお願いしていたが、展示室の密を避けるためと例年に比べ、受け入れる見学者が減少したために声がけを行わなかった。

制限が多く、児童・教員からの評価は良くないと思っていたが、見学後に実施した教員向けアンケートによる

と、「コロナ対策に配慮した時間の流れや、人数制限などを提案いただきありがとうございます」、「やはり実物を見せてもらえるのはよかったです」などといった評価が記載されており、制限が多く従来通りに見学対応や出張授業が出来ない中でも、児童・教員から満足頂ける教育が提供出来たのではないかと感じている。

4、おわりに

これまで、緊急事態宣言下と、宣言解除後の再開館に向けたにおける資料館の取り組み、小学校を中心とした団体見学・出張授業に対する資料館の対応についてまとめてきた。

感染拡大の収束が未だに見通せない中、どのようにして来館者へ安全に来館して頂くのかを常に考え、資料館が来館者へ寄り添う地域博物館として機能して行く必要性があるのではないかと考える。

また、今後はYoutubeを利用した動画配信を行う事により、来館出来ない小学生が授業や家庭学習に役立つだけで無く、遠方に居住されている方に当館の展示や取り組みを知ってもらい、新型コロナウイルスが収束後、実際に来館頂けるような仕組みを構築し、収束後の博物館運営についても考える必要があるのではないかと考える。

註

- i) 休館中に資料館で実施した子供向けコンテンツの配布については、北村美香「地方博物館における新型コロナウイルス感染拡大防止対策の現状」(『守れ!文化財～モノとヒトに光を灯す～2020年度 事業報告書』、「守れ!文化財～モノとヒトに光を灯す～」事業実行委員会編、令和3年)に詳しい。
- ii) 「おうちミュージアム」については、渋谷美月「支部情報 北海道支部 おうちミュージアムのはじまりとこれから」(『博物館研究』No.55.Vol.9、日本博物館協会、令和2年)、同「大きなコミュニティーとなったおうちミュージアム」(『博物館研究』No.55.Vol.10、日本博物館協会、令和2年)に詳しい。
- iii) 「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(日本博物館協会、令和2年5月14日付)
- iv) 「11月までの催事の開催制限等について」(内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長事務連絡、令和2年9月11日付)「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(日本博物館協会、令和2年9月18日付)
- v) 「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」(日本博物館協会、令和2年9月18日付)
- vi) 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」(文部科学省、令和2年12月3日付)

大東市立歴史民俗資料館におけるワタの栽培 —平成30年度から令和2年度の実施と考察—

森井 綾乃

1. はじめに

大東市立歴史民俗資料館(以下、資料館と略す)におけるワタの栽培は、大東市内の昔の産業についての教育普及活動を目的として行っており、平成30(2018)年度から現在に至るまで筆者が主導して毎年行ってきた。これまでに、収穫したワタの実を用いてワークショップを行ったり、展示として展開したり、常設のハンズオンコーナーや小学校の授業においても活用してきた。また、資料館は複合施設である「来ぶらり四条」という建物内にあり、様々な目的をもった来館者が訪れるが、ワタの畑は施設の入口(写真1)や道路に面した場所(写真2)にもあるため、資料館の利用を目的としない来館者や、周辺住民へのPRとしても機能している。

ワタの栽培に関わる1年間の作業は、主に畑の土づくり(土起し)・畝立て・播種・(ポリポットによる発芽の場合には)定植・間引き・支柱立て・摘芯・草引き・収穫などがあげられる(図1)。大蔵永常によって著された農書『綿圃要務』には、大東市内でも盛んにワタが栽培されていた江戸時代頃の栽培方法が詳述されており、大東市が含まれていた河内や畿内の栽培方法についても知ることが出来る。このような江戸時代の農法も参考としながら、平成30(2018)年度から令和3(2021)年度現在まで資料館で取り組んだワタの栽培方法について紹介する。

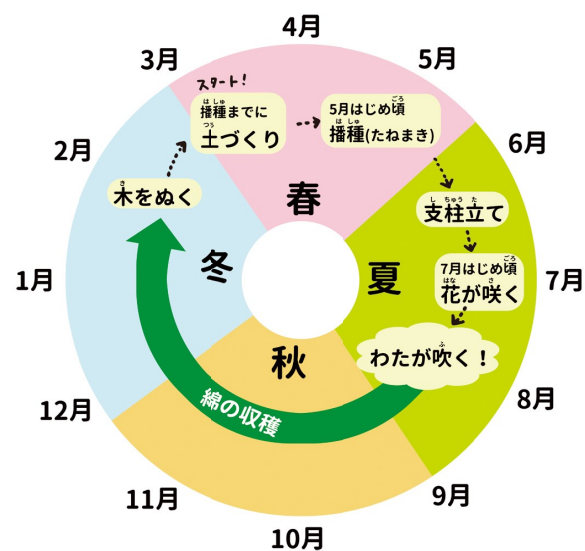


図1

2. 1年目

栽培初年の平成30(2018)年度は、十分な準備が出来ていないまま手探りで栽培を始めた。作業は筆者をはじめとして、資料館の学芸員や歴史とスポーツふれあいセンター職員、資料館で活動する市民学芸員等の協力のもとで行った。ワタの花は例年7月中旬~下旬頃に開花が始まるが、収穫が始まるまでの栽培に関わる作業は6月中旬頃までに集中する。1年目は播種から開花頃までの作業を、基本的に当時筆者が主導していた市民学芸員活

動「河内木綿知り隊・作り隊」の活動(表1)として行った。また同活動では畑関係作業の他、「河内木綿」や「相楽木綿」の伝承活動に取組む他館の見学や、冬季企画展における「河内木綿特集コーナー」の制作ⁱⁱにも取組んだ。なお、「河内木綿知り隊・作り隊」の一部の活動は平成30年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「進化系アーカイブと旅するミュージアム事業」として実施したため、詳細については『進化系アーカイブと旅するミュージアム 平成30年度事業報告書』(進化系アーカイブと旅するミュージアム実行委員会,2019)を参照されたい。

1年目はポリポットで発芽させて畝へ移植する方法と、畝へ直播きする方法を比較するため、畑の一部で2本並べた畝をそれぞれポット播きと直播きとして同数ずつ育てて様子を見た。その結果、ポット播きのワタの木の方が木の背丈が高く、木の太さは太くしっかりと生えて生育が顕著に良かった(写真3)。また、実の収穫量はポツ

ト播きの畝の方が多く収穫出来た(表2)。和綿の実は多くの場合蒴果から3つの房もしくは4つの房として種子が放出され(写真4)、この蒴果が割れて中の種子が出てくる現象を「わたが吹く」と言う。1年目は収穫日と乾燥後の実の重さを次の4つに分けて記録した(写真5)。

- ①ポット播きと直播きの比較を行った畝以外の場所において、3つの房に分かれて吹いた実
- ②直播きの畝において、3つの房に分かれて吹いた実
- ③直播きの比較対象であるポット播きの畝において、3つの房に分かれて吹いた実
- ④全ての畝において、4つの房として吹いた実

このように、全ての畑で4つの房として吹いた実を混ぜて分類したため、②と③で比較出来るのは畝で収穫した実のうち3つの房として吹いた収穫量のみであることから、完全な比較は出来ていない。また播種方法以外で考

月1の活動日 (第3木曜日)	4/19 事前学習	5/17 ポット播きの芽を移植	6/21 見学① 八尾市立歴史民俗資料館	7/19 見学会 振り返り	8/15(水) 見学② かたの機織り教室	9/20 見学会 振り返り	10/18 見学③ 相楽木綿伝承館	11/15 見学会 振り返り	12/20 綿繰り・糸紡ぎ練習	1/17 計量・記録	2/21 まとめ	3/21
展示関係・他									企画展「河内木綿コーナー」準備	企画展事業準備	公開講座・企画展事業	
畑関係	土づくり	播種・支柱たて・摘芯・草引き							収穫・草引き			木を抜く

表1:「河内木綿知り隊・作り隊」活動内容(平成30年度)



1: 施設入口付近の畑(令和2年9月)/ 2: 道路に面した場所の畑(令和2年10月)/ 3: ポット播きの畝(左)と地植えの畝(右)
4: 蒴果から放出された種子 / 5: 水やりチェック表と収穫方法の共有(平成30年)

日付	①	②	③	④
8/19	32			
8/20	56			
8/22	240			9
8/23	152			4
8/25	104			
8/26	18			
8/27	70			
8/28	48			
8/29	20	2		2
8/30	74	9		6
8/31	182		15	36
9/1	37			2
9/2	64		12	7
9/3	294	6	400	46
9/5	53	3	9	
9/6	328	5	40	18
9/7	236	50	13	10
9/9	162	3	20	18
9/10	18	1		
9/11	62	8	12	6
9/12	368	10	64	66
9/14	126	24	14	30
9/15	60	5	16	24
9/16	130	10	20	36
9/17	86	4	8	14
9/19	12			
9/21	180	18	10	34
9/23	120	8	4	18
9/25	45	1	8	14
9/28	188	8	2	35
9/29	28			2
10/1	27			
10/3	23	4	2	
10/4	26			6
10/6	16	2		5
10/7	7		2	
10/9	4			
10/11	5	3	0.5	
10/12	11			
10/13	9			

表 2 : 収穫量記録 (平成 30 年度)

日付	①	②	③	④
10/15	14	4	1	3
10/17	9			
10/18	4			
10/21	7			2
10/22	15			
10/29	21	7	2	2
10/30	13			
10/31	5			
11/1	1	4		
11/5	10			
11/7	22			
11/10	8			
11/11	2			
11/13	33	1		
11/17	22	2		
11/18		14		
11/21	6			
11/29	4			
12/8	84		8	20
12/15	25			
12/21	8			
12/24	35			
12/25	21	2		9
1/4	5			
1/10	2			
1/11	14			
1/17	38			10
1/26	10			
2/1	18			
2/9	32			
2/18	192	12	2	40
合計	4401	230	684.5	543

総収穫量 5858.5 (g)

- ① : グラウンド北畝、施設入口畝の 3 つ吹き
- ② : 粘土質畝 (直播き) の 3 つ吹き
- ③ : 粘土質畝 (ポット播き) の 3 つ吹き
- ④ : 全畝の 4 つ吹き



- 6 : ポットの苗を畝へ移植 (令和 3 年 5 月)
- 7 : 自動灌水用のホースを設置 (令和元年 5 月)
- 8 : マルチシートで覆った畝 (令和元年 5 月)
- 9 : マルチシート下で伸びていた雑草 (令和元年 5 月)

えられる要因は、日当たりや傾斜具合などといった条件の違いが挙げられ、播種方法だけを要因と断定出来ない。なお、比較対象とした場所は粘土質で土が固まりやすく、他の場所の木と比較すると背丈が低く生育が良くなかったため、2 年目以降は畑として使用していない。これらの理由から、どちらの播種方法が生育にとって良いのかは不明であったが、ポット播きの場合はポリポットで発芽させている間に畝を準備出来る点や、発芽した際に生育の悪い芽を除いて植えることが出来る点で都合が良かったため、2 年目以降はポリポットに播種を行い、発芽後畝へ移植している (写真 6)。

3. 2 年目

平成 31 (2019) 年度以降は前年度生育が良くなかった粘土質の場所を除き、畑の面積を 1 年目より縮小した形で栽培した。畑面積の縮小によってワタを植えられる本数が減ったことと、隣り合うワタの間隔を 1 年目は 30 cm としていたところを 2 年目は 45 ~ 60cm と広げたことで、栽培本数をさらに少なくすることとなった (表 3)。

また、2 年目以降は水やりのために自動灌水タイマーを設置した (写真 7)。1 年目には職員がジョウロで毎日水やりを行うことに多くの時間を要し、夏は水やりが出来ない日が続くとすぐに木が干からびた。資料館の勤務がシフト制のため翌日の出勤者が水やり状況を把握できるように水やりチェック表を用意するなど工夫をして 1 年目を終えた。しかし 2 年目からは自動灌水タイマーを設置して毎日定刻に自動的に水やりをすることが可能となり、ワタの栽培に関する業務量が大幅に削減された。

雑草対策では、2 年目のみマルチシートを使用した (写真 8)。『綿圃要務』ではまめな雑草対策を行うように書かれているが、1 年目の経験から雑草の伸びるスピードが早く、難しいことが分かったため、マルチシートを使用して畝を太陽光から遮断し、雑草対策を試みた。また、

2 年目はマルチシートの効果で頻繁に草引きを行う必要がなくなると見込み、筆者が主導する市民学芸員活動である「大東木綿隊」(「河内木綿知り隊・作り隊」を改名した) では畑作業を行わなかった。そこで播種や畝への移植、日々の草引きや収穫といった人手を多く要する作業の際は臨時的に市民学芸員を募り、他の学芸員等の手も借りて作業を行った。なお、市民学芸員の自主的な活動としても畑の世話を行っていただいた。

このような条件で雑草が畝に広がることを大方防ぐことが出来たが、いくつかの欠点が判明した。まず 1 つ目に、マルチシート下でも雑草は多少伸び、完全に防ぐことは出来ていなかった (写真 9)。次に、発芽して間もなくワタが十分に成長していない時期にマルチシートに空けた穴がずれた場合、シート下にワタが潜り込んで太陽光が遮断されるとともにシートの重みでつぶされたり、成長前の芽がシートでこすれて傷ついた (写真 10)。さらに、作業の際に踏みなどして劣化しちぎれたマルチシート片が後々土に混ざりこんで取り除く手間がかかった。このような欠点に鑑みて 3 年目以降はマルチシートの使用を取りやめた。また、3 年目と 4 年目は新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、「大東木綿隊」の活動内容を当初予定していた糸紡ぎや機織りといった屋内作業から屋外のワタ畑作業に変更し、活動停止期間と雨天中止を除いた月に 1 回、市民学芸員とともに草引きを行った。



10 : マルチシートの穴とワタの芽 (令和元年 5 月)

その他にスタッフの方で草刈りを行うこともあるものの、基本的に雑草は十分に除去できていない状態で栽培を行っている。

栽培したワタの本数は2年目が最も少なかったが、収穫量は1年目から3年目の中で最も多かった。要因として、マルチシートによって雑草の拡がりを防いだことや、隣り合うワタの間隔を広げたことが作用したと考えられる。木の生育は、先端の芽を摘んで背丈が伸びることを防ぐための「摘芯」を何度か行ったにも関わらず2m以上の高さまで伸びた木もあり(写真11)、ワタにとって育ちやすい環境だったようだ。

4. 3年目

令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により市民学芸員活動が休止し、資料館が臨時休館する中でワタの栽培が始まった。業務の都合により土起しを始めた日と播種を行った日が最も遅い年となった。この年は、前述したようにマルチシートは使用しなかった。また1年目と2年目には支柱を立てて1本ずつワタを括り付け、台風等で倒れないように支えていたが、支柱に関する記載が『綿圃要務』になかったことから3年目と4年目現在は支柱を立てず栽培を行った。そうしたところ、ワタは木や蒴果の重みであまり上へ伸びないことが分かった。地面近くを水平方向へ広がるように伸びるワタもあれば、地面と水平方向にも広がらず、木の高さが50cmから90cm程度となるワタも多かった(写真12、13)。その様子はちょうど、『綿圃要務』にも絵として描かれている、背の低いワタが繁る様子(写真14)と一致しているようにも感じられた。『綿圃要務』には、木の長さが伸びすぎると、肝心の蒴果の付き方が少なくなると書かれているが、2年目よりも木が伸びなかった3年目は、木の本数は増えているものの収穫量は半分以下に減っている。ただし、2年目と変更した条件は支柱のみ

ではないため、収穫量の差について直接の要因と断定出来ない。

また、ワタ同士の間隔について『綿圃要務』では約五、六寸(約15~18cm)間隔に1本ずつであったり、五尺(約150cm)に10本ずつなどと記されていたのに対し、ワタ同士の間隔をあけた方がワタの生育が良いのではないかとこの考えや、マルチシートに穴をあける際に間隔が狭すぎると穴同士が連結するなどといったことから1年目は約30cm、2年目は45~60cmとかなり広めにしていたが、3年目と4年目には『綿圃要務』に近づけて約20cm間隔で植えることにした。

さらに『綿圃要務』では連作について、年々続けて同じ所に作るのは適当ではなく、3年作ったら地替えするべきなどと言う農民もいるけれども、手入れや肥料の仕方によっては、何年も同じ土地に作る所もあるいうように書かれており、耕作地を変えた方がほうがいいとも変えなくても大丈夫とも読み取れる。そこでこれまで育てていた畝のうち半分のみを使用して、翌年には使用する場所を入れ替えることで地替えを試みた。こうして畑の面積としては2年目よりもさらに縮小したが、ワタ同士の間隔を狭めたことにより栽培本数は2年目よりも3年目や4年目の方が多く育てることとなった。

また、1本のワタの木に出来る蒴果の数について、『綿圃要務』では1本の木に8~10個蒴果ができるように育てるといった記載が見られることから、通常1本の木に何個の実が出来るか調べるため、3年目は木ごとに記録をつけながら収穫した(写真15、16)。その結果、平均すると1本の木あたり約8個、最も多い木は23個の実を収穫したことが分かった(表4)。ただし今回1本のワタの収穫数として記録する際には蒴果の数を数えており、房(繊維のついている種子の塊)の数ではない。

5. おわりに

以上のように、資料館で平成30年から継続して取り組んできたワタの栽培は、雑草対策や支柱、ワタを植える間隔などの点で、時には『綿圃要務』を参考としながら、前年の反省を活かす形で毎年試行錯誤してきた。これまでの経験から、今後の栽培を次のように行いたいと考えている。

まず雑草対策については、『綿圃要務』からよく雑草の手入れをしなければならないことが読み取れるものの、業務上の都合から今後も現状のような作業ペースで草引きを行い、マルチシートは撤収の困難さや扱いにく

さから使用せずに栽培しようと考えている。支柱を立てることに関しては、収穫量の結果からも一概に木を伸ばす方がいいか、または伸ばさない方がいいか判断し難いが、『綿圃要務』に倣って支柱を立てず背を低くすることを継続したいと考えている。ワタを植える間隔については、間隔を広くとった令和元年度の収穫量が最も多かったものの、今後も『綿圃要務』に記された内容を踏襲し、現状を継続したいと考えている。

今後まず改善をしたいと考えているのは、播種用の種の選別方法である。1~3年目は実を収穫する際に4つ

年度	平成30	平成31(令和元)	令和2	令和3
総収穫量(g)	5858.5	13367	5714	-
総栽培本数(本)	522	277	373	378

表3：年度別収穫量



11：2m以上のワタ(令和元年9月) / 12：縦に伸びたワタ(令和元年10月) / 13：横に伸びたワタ(令和2年11月)
14：『綿圃要務』より、実を収穫する様子の絵図(国立国会図書館デジタルコレクションより) / 15：マスキングテープを使用して木ごとに収穫量を「正」の字で記録した / 16：マスキングテープの記入を確認し記録

令和2年度企画展 「切る道具」展の実施

森田 拓馬

展示概要

大東市立歴史民俗資料館(以下、資料館)では例年夏休み期間にあわせて、子ども向けの展示を行ってきた。小学3年生や4年生になると図画工作の授業で、小刀やかんたんなのこぎりといった切断機能を持つ道具を使用した木材加工の課題が出される。これを踏まえ、現在と昔の「切る」機能を持った道具の比較や、大東市域で切る道具を使って作られてきた道具などを紹介する『切る道具』展を開催した。



切る道具展 チラシ

本年度の特別な状況として、前年度の1月末より新型コロナウイルスの感染が拡大し、大阪府を含めた7都道府県に緊急事態宣言が発令され、施設休館や勤務時間の短縮などがあった。資料館でも春の企画展示が行えず、切る道具展が本年度最初の企画展示となった。5月末に資料館は再開館することとなったが、感染症対策としてソーシャルディスタンスを確保し「3つの密(密閉・密集・密接)」を避ける、入館者にはマスク着用、入館時に連絡先を記入、手指のアルコール消毒への協力を呼び掛けるようになった。



ソーシャルディスタンスを促すパネル

切る道具展では当初、実際に道具に触ってみたい、道具の重さや重心の位置を体感できるような展示を計画していたが、不特定多数で同じものに触れる事は非常に感染リスクが高まる為に断念した。また、展示期間は当初7月11日(土)から8月31日(月)までの予定だったが、8月1日(土)から9月27日(日)へと変更された。

展示構成

展示は3部構成とし、企画展示室1では第1章「切る道具の今と昔」、企画展示室2では第2章「大東市域で使われてきた道具と、作られた道具たち」、企画展示室1と2をつなぐ廊下の窓側壁面を利用してパネル「私の逸品」コーナーを設置した。

第1章では、小学校にお道具箱の中にある「ハサミ」や、家庭科の調理実習で使う「包丁」、図工で使う「小刀」「のこぎり」の他に、身近にある「散髪道具」や「カミソリ」、農作業や園芸で使用する「カマ」の他、「ナタ」「オノ」などを取り上げた。これらの道具を用いて、現在使われているものと昔使われていた道具を比較できるように、館収蔵品と借用資料を展示した。それぞれの道具が使用された年代については、「ぼく・わたし」(平成20年代以降)、「お父さん・お母さん」(昭和40年代以降)、「おじいちゃん・おばあちゃん」(昭和20年代以降)、「ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃん以前」(大正～昭和10年代以前)とい

う相対年代で表現し、入口には相対年代を示すパネルを掲示した。また、当館に隣接する大東市立東部図書館のご協力を得て、展示関連図書コーナーを図書館内に設置して頂いた。



企画展示室1

第2章では「大東市域で使われてきた道具と、作られた道具たち」と題し、昔の大東市ではどんな道具が使われ、どんな物を加工してきたのかを企画展示室2に展示した。特に大東市を含む北河内地域では、川舟作りや踏車の工房が13軒確認されている。その中から資料館が所蔵する船大工や踏車職人が使用した道具、それらの道具を使用して製作された踏車・小車などを展示した。また、常設展示室1の吹き抜け部分には昭和末期に復元された川舟が展示されており、3階廊下から見る事ができる。



企画展示室2

企画展示室1と2を繋ぐ廊下では、館学芸員から市民

学芸員の他、近隣の野崎参道商店街の店舗や、大東市立野外活動センターのスタッフの方々にお越し、愛用している切る道具を紹介して頂く「私の逸品」コーナーを設けた。実際の道具を借用するのは難しいため、写真撮影をさせていただき、簡単な紹介文を添えてパネル展示を行った。当資料館は小学校だった建物を改修して資料館施設として利用しているために、廊下は小学校当時の廊下の広さとなっている。展示台を設置するとソーシャルディスタンスが保ちにくいため、廊下では資料の展示は行わず、窓部分へのパネル展示に限った。



私の逸品コーナー

関連事業

展示関連事業として、9月13日(日)に、大東市立野外活動センターにご協力いただき、「竹で弓矢を作ってみよう」というイベントを行った。のこぎりやナタ、小刀、ハサミなど、今回の展示資料と同じ種類の道具を使用して、竹の弓矢作りを行った。対象年齢は小中学生とし、未就学児の参加希望者には保護者同伴をお願いした。

今年は大東市でもコロナ感染症対策として小中学校の休校期間があったため、夏休みは通常よりも短い8月1日から20日までだった。夏休みが終わった時期に展示関連イベントを開催することになったが、受付開始日から応募があり最終的な応募は11名となった。応募者は小学校低学年が最も多く、小学校低学年の兄と一緒に未

就学児の参加もあった。



関連事業「竹で弓矢を作ってみよう」

開催日は野外活動センターの規定に従い、受付時に体温測定とアルコールによる手指消毒を行った。作業用の軍手を配布し、イベント中はマスク着用をお願いした。前述した弓矢作りに使用する道具は、家族間での共用に止め、参加者間での共用が起らないよう心掛けた。実施日は9月で残暑も厳しい時期だったため、コロナ感染症対策だけでなく参加者の熱中症対策として水分補給の声掛けなども積極的に行った。

おわりに

例年とは異なり、新型コロナウイルスへの感染対策を行いながらの試行錯誤をしながらの手探りの展示となった。また勤務時間短縮など、予定通りに展示準備が進められない状況もあったが、無事に開催に漕ぎ着けることが出来た。

展示期間中は1045人が来場した。資料館内に長時間とどまらないよう、展示解説パネルの文字数を減らしたり、展示資料の数も少なめにするなどの工夫を試みた。展示開催中は記入式のアンケートを取ったが、文字数が少ないことについては好意的な意見が多かった。

関連イベントでは参加申し込み人数を普段より少なく設定していたものの、当日は参加者の保護者や、参加しないものの兄弟や姉妹が会場に同行していたため、当初

予定していた人数以上が集まった。感染症対策を全員に徹底して協力してもらったため、大きな混乱も感染の発生も確認されなかったが、特にコロナ対策下でのイベント開催時には考慮すべき課題だったと考える。

最後に、今回の展示では大東市立野外活動センター様、大東市立東部図書館様、野崎参道商店街のバードブルーム様、大東フォトスタジオ様、菓子司壬生様に御協力頂いた。末筆となるが、ご協力いただいた皆様に改めて心より感謝申し上げます。

令和2年度企画展「切る道具」 展示品リスト

第1章「切る道具の今と昔」

1 ハサミコーナー

	名称	所蔵
1	握りバサミ	大東市教育委員会
2	樹脂柄握りバサミ	個人蔵
3	洋バサミ	個人蔵
4	裁ちバサミ	個人蔵
5	ステンレスハサミ	個人蔵
6	幼児向けハサミ	個人蔵
7	剪定バサミ	個人蔵
8	アルミ柄剪定バサミ	個人蔵

2 包丁・小刀コーナー

9	刺身包丁	個人蔵
10	出刃包丁	個人蔵
11	菜切り包丁	個人蔵
12	セラミック包丁	個人蔵
13	三徳包丁	個人蔵
14	切り出し小刀	大東市教育委員会
15	肥後守	大東市教育委員会・個人蔵
16	クラフトナイフ	個人蔵
17	カッター 大小	大東市教育委員会
18	ミッキーナイフ	個人蔵

3 身だしなみコーナー

19	和カミソリ	大東市教育委員会・個人蔵
20	洋カミソリ	大東市教育委員会
21	替え刃式洋カミソリ	個人蔵
22	安全カミソリ	個人蔵
23	使い捨てカミソリ	個人蔵
24	替え刃式T字カミソリ	個人蔵
25	電気シェーバー	個人蔵
26	理容バサミ・すきバサミ	個人蔵
27	バリカン	個人蔵
28	電動バリカン	個人蔵

4 カマ・ナタコーナー

29	草刈りガマ	大東市教育委員会
30	鋸ガマ	大東市教育委員会
31	ステンレス草刈りガマ	個人蔵
32	折畳みガマ	個人蔵
33	ナタ	大東市教育委員会
34	ゴム柄ナタ	個人蔵

5 オノコーナー

35	割オノ	大東市教育委員会
36	樹脂柄オノ	個人蔵
37	樹脂柄切り斧	個人蔵

6 ノコギリコーナー

38	ノコギリ	大東市教育委員会
39	ノコギリ	大東市教育委員会
40	両刃ノコギリ	大東市教育委員会
41	胴付きノコ	大東市教育委員会
42	折畳みノコギリ	個人蔵
43	替え刃式ノコギリ	大東市教育委員会
44	替え刃式両刃ノコギリ	個人蔵
45	替え刃式細工ノコギリ	個人蔵

第2章「大東市域で使われてきた道具と、作られた道具たち」

46	川舟作りの木型	大東市教育委員会
47	船大工道具箱	大東市教育委員会
48	踏車作りの部品・木型	大東市教育委員会
49	踏車	大東市教育委員会
50	小車	大東市教育委員会

大東市立歴史民俗資料館 館報 第5号

令和3年(2021)9月30日 発行

編集・発行 大東市立歴史民俗資料館(指定管理者:株式会社アステム)

〒574-0015 大阪府大東市野崎3-6-1

TEL:072-876-7011 FAX:072-876-7702

デザイン 森井 綾乃(株式会社アステム)